

令和6年度  
一般廃棄物処理基本計画策定に向けた基礎調査結果について  
(ごみ組成分析調査・アンケート調査結果)  
主なものの抜粋

# 一廃棄物処理基本計画策定に向けた基礎調査概要について

項目	ごみ組成分析調査	アンケート調査
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭・事業者から排出されるごみの組成(中身)等を詳細に把握し,本市のごみ組成の経年変化や,現在実施している減量化・資源化施策の効果等について分析する。</li> <li>・ごみに含まれる食品ロス,資源化可能品目,将来における資源化検討品目等を中心とした分類を行い,組成ごとの排出量・加重平均・割合等を算出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民・事業者の3R行動の取組状況や分別状況,ごみの減量化・資源化施策の認知度等について調査し,現行計画における各施策の効果を検証する。</li> <li>・新たなごみの減量化・資源化施策の企画・立案に向けた市民・事業者ニーズを把握する。</li> </ul>
対象 (地区・業種)	<p>【家庭系】</p> <p>4種:焼却ごみ,プラスチック製容器包装,不燃ごみ,危険ごみ</p> <p>5地区:戸建住宅,集合住宅(家族及び単身世帯),商業,農業集落</p> <p>【事業系】</p> <p>1種:焼却ごみ</p> <p>7業種:スーパー,ホテル,飲食店,コンビニ,オフィス,百貨店,工場</p>	<p>【市民】</p> <p>・市内在住の満18歳以上の男女(2,500名)</p> <p>【事業者】</p> <p>・市内で活動する事業者(500事業者)</p>
期間	令和6年5月27日～7月5日	令和6年8月1日～8月30日
参考 前回調査	<p>【家庭系】 令和4年度</p> <p>【事業系】 平成28年度</p>	令和2年度

# ごみ組成分析調査結果について

区分		R6結果(全体)		品目 【排出割合が多い地区】
		考察	内訳	
家庭系	焼却ごみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭系焼却ごみについて、<b>80%</b>は<b>正しく分別</b>されている。生ごみの割合は減少しているが、清掃工場での拠点回収(資源化)している剪定枝の割合が増加しているとともに、依然として食品ロスが含まれている。</li> <li>・また、<b>20%</b>は<b>分別が誤っており</b>、プラスチック製容器包装の割合が増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>焼却ごみ:80%の主な内訳</b>                生ごみ(R4:27.2%⇒R6:16.9%)                剪定枝(R4:8.8%⇒R6:23.9%)                食品ロス(R4:6.3%⇒R6:9.6%)</li> <li>・<b>焼却ごみ以外:20%の主な内訳</b>                プラ容器包装(R4:7.1%⇒R6:8.5%)</li> </ul>	食ロス (・農業集落 ・集合住宅(家族)) 剪定枝 (・戸建住宅 ・商業)
	プラ容器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチック製容器包装について、<b>81.7%</b>は<b>正しく分別</b>されている。</li> <li>・また、<b>18.3%</b>は<b>分別が誤っており</b>、汚れが落ちていないものや汚れが落ちにくいもの、現在焼却ごみとしているおもちゃなどの「プラ製品」が含まれている。(将来的には資源化予定)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<b>プラスチック製容器包装:81.7%</b></li> <li>・<b>プラスチック製容器包装以外:18.3%の主な内訳</b>                汚れがひどいプラ容器:9.5%                資源化を検討しているプラ製品:4.4%</li> </ul>	プラ容器包装 (・集合住宅(单身) ・集合住宅(家族)) 汚れがひどいプラ容器 (・農業集落 ・集合住宅(家族)) プラ製品 (・商業 ・農業集落)

# ごみ組成分析調査結果について

区分		R6結果(全体)		品目 【排出割合が多い地区等】
		考察	内訳	
家庭系	不燃ごみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不燃ごみについて、<b>74.9%</b>は正しく<b>分別</b>されているが、市役所・地区市民センター等で拠点回収(売払)している「小型家電」が含まれている。</li> <li>・また、<b>25.1%</b>は<b>分別が誤っており</b>、電池類などの危険ごみや、ごみステーションに排出できない「電池が外せない家電」が含まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不燃ごみ:<b>74.9%</b>の<b>主な内訳</b> (小型家電:10.7%)</li> <li>・不燃ごみ以外:<b>25.1%</b>の<b>主な内訳</b> 危険ごみ(電池類):6.7% 電池が外せない家電:3.3%</li> </ul>	小型家電 (・集合住宅(单身) ・商業)
	危険ごみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険ごみについて、<b>86.3%</b>は正しく<b>分別</b>されているが、電池類で絶縁されていないものが多く含まれているしている。</li> <li>・また、<b>13.7%</b>は<b>分別が誤っており</b>、ガラスなど不燃ごみが含まれている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険ごみ:<b>86.3%</b>の<b>主な内訳</b> 電池類:39.2%の絶縁状況 (あり:8.4%, なし:30.8%)</li> <li>・危険ごみ以外:<b>13.7%</b>の<b>主な内訳</b> 不燃ごみ(ガラスなど):13.4%</li> </ul>	危険ごみ (・農業集落 ・商業)
事業系	焼却ごみ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業系焼却ごみについて、<b>79.3%</b>は<b>正しく分別</b>されている。食品ロスの割合は減少しているものの、依然として含まれている。</li> <li>・また、<b>20.7%</b>は<b>分別が誤っており</b>、廃プラスチック類が増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・焼却ごみ:<b>79.3%</b>の<b>主な内訳</b> 食品ロス(H28:37.5%⇒R6:23.9%)</li> <li>・焼却ごみ以外:<b>20.7%</b>の<b>主な内訳</b> 廃プラ類(H28:10.0%⇒R6:10.4%)</li> </ul>	電池(絶縁なし) (・集合住宅(单身) ・商業)
				不燃ごみ (・集合住宅(家族) ・集合住宅(单身))
				食ロス (・コンビニ ・飲食店)
				廃プラ類 (・飲食店 ・コンビニ)

# アンケート調査結果について

## ア 回収状況

区分	送付数	回答数			回収率			参考 R2回収率
		紙	WEB	全体	紙	WEB	全体	
市民	2,500件	1,104件	212件	1,316件	44.1%	8.5%	52.6%	41.4%
事業者	500件	165件	46件	211件	33.0%	9.2%	42.2%	32.8%

## イ 回答者の分布

市民	年齢区分	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	無回答	計
	回答数	0	7	81	158	211	261	324	272	2	1,316
	割合	0.0%	0.5%	6.2%	12.0%	16.0%	19.8%	24.6%	20.7%	0.2%	100%
	参考 R2割合	0.0%	6.3%	10.8%	16.1%	14.7%	19.7%	22.6%	9.7%	0.1%	100%

事業者	業種区分	建設	製造	運輸・ 通信	卸売・ 小売	宿泊・ 飲食	金融・ 保険	医療・ 福祉	教育・ 学習支援	サービス	その他	計
	回答数	24	21	5	38	17	8	36	10	22	30	211
	割合	11.4%	10.0%	2.4%	18.0%	8.1%	3.8%	17.1%	4.7%	10.4%	14.1%	100%
	参考 R2割合	13.4%	9.1%	4.3%	11.6%	7.9%	1.8%	12.8%	1.8%	21.3%	16.0%	100%

# アンケート調査結果について

## ウー① 調査結果(市民アンケート:主なもの)

### 【前回調査と同様の設問(ごみ関係)】

区分	考察	R6結果					
		回答	割合	前回比	回答	割合	前回比
ごみ問題の関心	<p>・前回に続き、ごみの分別・出し方に高い関心があり、今回は食品ロス・生ごみの資源化への関心が高い。</p> <p>・拠点回収をしている廃食用油や剪定枝は、前回より関心が高まっているものの、依然として低い。</p>	①ごみの分別	66.3%	±0.0	⑪ごみ処理に伴う環境影響等	9.4%	▲2.6
		②ごみの出し方	44.2%	+1.8	⑫リサイクルショップ等	8.8%	+2.5
		③食品ロス	25.2%	+3.1	⑬資源物の持ち去り	8.0%	▲1.7
		④プラスチックの資源化	14.8%	▲1.7	⑭小型家電の資源化	7.6%	+0.3
		⑤資源化の仕組み	19.1%	▲4.4	⑮資源物集団回収	7.3%	+1.8
		⑥ごみ・資源物量の状況	13.0%	▲1.0	⑯廃食用油の資源化	6.4%	+3.6
		⑦生ごみの資源化	12.8%	+9.0	⑰剪定枝の資源化	5.7%	+2.7
		⑧ごみ収集・処理費用	10.4%	+1.0	⑱環境に配慮している店舗	3.3%	▲0.3
		⑨最終処分場の状況	9.7%	▲0.2	⑲ごみ問題に取り組む団体等	2.0%	+1.2
		⑩処理施設の状況	9.5%	+1.3			
ごみに関する情報	<p>・前回に続き、分別冊子、広報紙、自治会回覧が主な情報源となっている。</p> <p>・「さんあーる」など電子媒体の利用が増加している。</p>	①市の分別冊子	54.3%	▲8.0	⑧分別アプリ「さんあーる」	7.8%	+3.4
		②市の広報紙	51.1%	▲0.9	⑨市の窓口・電話	4.9%	▲2.4
		③自治会回覧	38.6%	+3.8	⑩職場・学校	1.5%	▲0.5
		④地域の人や自治会	35.3%	+1.0	⑪市のイベント	1.1%	▲0.1
		⑤市ホームページ	23.5%	+0.6	⑫雑誌籍	0.9%	▲0.8
		⑥家族・友人・知人	8.3%	▲2.9	⑬環境学習センター	0.2%	▲0.6
		⑦テレビ・新聞等	8.1%	▲3.1			

# アンケート調査結果について

## ウー① 調査結果(市民アンケート:主なもの)

### 【前回調査と同様の設問(ごみ関係)】

区分	R6結果						
	考察	回答	割合	前回比	回答	割合	前回比
<b>資源物 分別未実施品目</b> (分別していない)	・白色トレイ, 紙パック, プラ容器などの資源物の分別は向上しているが, 依然として10%以上分別されていない資源物がある。	①白色トレイ ②紙パック ③その他紙類 ④プラ容器包装 ⑤布類	18.5% 14.7% 14.2% 7.8% 6.6%	▲3.2 ▲3.5 +3.1 ▲3.9 ▲2.7	⑥雑誌・書籍 ⑦ペットボトル ⑧ダンボール ⑨びん缶類 ⑩新聞	0.7% 0.7% 0.3% 0.3% 0.2%	±0.0 ▲0.4 +0.2 ▲0.5 ▲0.1
<b>拠点回収の利用状況</b> (いつも利用している, 時々利用している, 持っていない)	・インクカートリッジ, 小型家電の拠点回収の利用は増加しているが, 剪定枝の利用は減少している。	①インクカートリッジ ②小型家電 ③廃食用油 ④剪定枝	71.0% 56.6% 47.5% 43.1%	+2.3 +3.4 ▲0.8 ▲8.8	/		

# アンケート調査結果について

## 【今回調査で追加した設問(ごみ関係)】

区分	R6結果			
	考察	新規設問	回答	割合
リサイクルショップ・アプリ等を活用したリユース	<p>・リユースをしたことがない理由は、「ショップ等の場所がわからない」をはじめ、「判断が難しい」「手間」「手段がない」など多岐に渡る。</p> <p>・現在検討している「清掃工場から引き抜いた粗大ごみのリユース事業」については、利用したい(有償・無償)市民が54.5%いる一方、「持ち帰ることが困難」「抵抗がある」など利用の検討が難しい市民も38.3%いる。</p>	<p>・リサイクルショップやアプリ等を活用してリユースをしたことがない理由</p> <p>※リユース経験あり:57.3%</p> <p>※リユース経験なし:38.8%</p>	<p>①リユースショップの場所がわからない</p> <p>②リユースできるかどうかの判断が難しい</p> <p>③売ったり譲ったりすることが手間</p> <p>④リユースショップ等に行く手段がない</p> <p>⑤アプリの操作方法がわからない</p> <p>⑥他人に使われたくない</p>	<p>29.0%</p> <p>19.6%</p> <p>14.9%</p> <p>10.2%</p> <p>9.8%</p> <p>4.3%</p>
		<p>・清掃工場に持ち込まれた「まだ使えそうな家具など」を修理などは行わずに提供する場合、利用したいと思うか？</p>	<p>①傷や汚れの状態によっては利用したい</p> <p>②持ち帰ることが困難なため利用したくない</p> <p>③リユース品は抵抗があるため利用したくない</p> <p>④無償であれば利用したい</p>	<p>39.5%</p> <p>21.1%</p> <p>17.2%</p> <p>15.0%</p>

## 【今回調査で追加した設問(ごみ関係)】

区分	R6結果			
	考察	新規設問	回答	割合
家庭ごみ有料化	<p>・家庭ごみの有料化について、反対65.6%、賛成18.5%で反対派が多い。反対派の意見としては、「不法投棄の増加」や「費用負担の増加」を懸念する声が多い。</p> <p>・賛成派の意見としては、「ごみの発生抑制」や「費用負担の公平性」などの意見が多い。</p>	・家庭ごみの有料化(ごみ処理手数料の徴収)について、どのように考えているか？	①反対, どちらかというところと反対 ②賛成, どちらかというところと賛成 ③どちらともいえない, わからない	65.6% 18.5% 13.0%
		・反対の理由	①不法投棄が増えると思うから ②費用負担が増加するから ③ごみ処理費用は市税で賄うべきだから ④有料化してもごみは減らないと思うから ⑤有料化より他の施策を充実させるべきだから	69.1% 57.1% 32.6% 31.4% 30.1%
		・賛成の理由	①ごみの発生抑制につながるから ②費用負担の公平性が確保できるから ③ごみ処理施設等の延命につながるから ④環境負荷の低減につながると思うから ⑤県内他市町でも実施しているから	67.5% 44.0% 40.7% 39.1% 8.2%

# アンケート調査結果について

## 【前回調査と同様の設問(生活排水関係)】

区分	R6結果			
	考察	回答	割合	前回比
生活排水を単独浄化槽・汲み取りトイレで処理している市民における公共下水道への接続や合併処理浄化槽への転換を行わない理由	・前回同様、「経済的に困難だから」「今のままで困らないから」が多い。 ・「放流先がない」「スペースがない」は減少している。	①経済的に困難だから ②今のままで困らないから ③浄化槽から排水するための放流先がないから ④住宅の建替え等にあわせて接続(設置)したいから ⑤合併浄化槽を設置するスペースがないから	28.2% 20.5% 17.9% 15.4% 0.0%	+3.2 +0.5 ▲7.1 +5.4 ▲5.0
生活排水を浄化槽で処理している市民における浄化槽の保守点検・法定検査・清掃の認知	・保守点検・法定検査の認知度は高い。 ・また、保守点検・法定検査の受検状況は高いものの、一部未受検の市民もいる。	①保守点検が必要だと知っている ②清掃が必要だと知っている ③法定検査が必要だと知っている ④どれも知らない	87.6% 60.2% 57.5% 4.4%	+3.1 +7.8 ▲3.2 ▲0.4
浄化槽の保守点検・法定検査が必要だと認知している市民における点検・検査の実施状況		①どちらも受検 ②保守点検のみ受検 ③どちらも未受検 ④法定検査のみ受検	81.4% 12.7% 2.9% 0.0%	+2.7 +0.7 +1.6 ▲1.3
浄化槽の保守点検・法定検査の両方を実施していない理由		①保守点検を受検すれば問題ないから ②知らなかった ③経済的に困難だから ④周りも法定検査を受けていないから ⑤受けていない人もいて不公平だと思うから ⑥法定検査を受けていれば問題ないから	50.0% 12.5% 12.5% 6.3% 0.0% 0.0%	+22.7 ▲42.0 +3.4 ▲11.9 ▲9.1 ▲18.2

# アンケート調査結果について

## ウー② 調査結果(事業者アンケート:主なもの)

### 【前回調査と同様の設問】

区分	R6結果			
	考察	回答	割合	前回比
一般廃棄物の減量化・資源化に取り組む理由	・前回に続き、「地球環境への配慮」「ごみ処理費用の削減」「企業の社会貢献」が主な取り組む理由となっている。 ・「取り組んでいない」事業者は減少している	①地球環境への配慮 ②ごみ処理費用の削減 ③企業の社会貢献 ④行政からの指導 ⑤宣伝・企業イメージ ⑥取り組んでいない	70.6% 59.2% 55.9% 10.4% 4.7% 2.4%	+12.1 +9.8 +27.2 ▲3.0 +1.7 ▲3.7
一般廃棄物に関する情報	・前回に続き、「市のマニュアル」「収集運搬業者等」「市の広報紙」が主な情報源となっている。 ・「情報を得る手段がない」事業者は減少している。	①市のマニュアル ②収集運搬業者等 ③市の広報紙 ④市のホームページ ⑤新聞・インターネット等 ⑥同業者・加盟団体等 ⑦市の窓口・電話 ⑧情報を得る手段がない	38.4% 37.4% 34.1% 29.9% 22.7% 11.8% 2.4% 1.9%	+4.3 +1.4 ▲6.1 +6.1 +4.4 ▲3.2 ▲0.6 ▲0.5

# アンケート調査結果について

## 【前回調査と同様の設問】

区分	R6結果						
	考察	回答	割合	前回比	回答	割合	前回比
一般廃棄物の減量化・資源化の取組	<p>・各減量化・資源化に取り組む事業所が増加している。</p> <p>・「分別用ごみ箱の設置」事業所が大きく増加しているとともに、「特に取り組んでいない」事業者は大きく減少している。</p>	<p>①分別用ごみ箱の設置</p> <p>②空き容器を業者へ返却</p> <p>③会議等で呼びかけ</p> <p>④周知啓発物の社内掲示</p> <p>⑤プラごみの発生抑制</p> <p>⑥納入業者へ簡易包装・通い箱の使用を依頼</p>	<p>82.9%</p> <p>26.1%</p> <p>21.3%</p> <p>19.9%</p> <p>11.4%</p> <p>7.6%</p>	<p>+25.6</p> <p>+11.6</p> <p>+13.4</p> <p>+9.5</p> <p>+0.4</p> <p>+2.1</p>	<p>⑦ごみ減量責任者等の設置</p> <p>⑦古紙の共同回収</p> <p>⑨特に取り組んでいない</p> <p>⑩独自のマニュアル作成</p> <p>⑪社員自らごみ等の計量</p> <p>⑫生ごみ処理機の設置</p>	<p>6.6%</p> <p>6.6%</p> <p>6.2%</p> <p>5.2%</p> <p>4.3%</p> <p>1.9%</p>	<p>+4.2</p> <p>+1.7</p> <p>▲15.1</p> <p>+1.5</p> <p>+3.7</p> <p>+1.3</p>
行政に求めること	<p>・前回に続き、「分別の手間・労力・費用を減らす仕組みづくり」「業種別の減量方法を示したマニュアルの配布」を求めている。</p> <p>・「先進的な取組の紹介」や減量した事業所に対する「インセンティブが働く仕組みづくり」を求める声が増加している。</p>	<p>①分別の手間・労力・費用を減らす仕組みづくり</p> <p>②業種別の減量方法を示したマニュアルの配布</p> <p>③先進的な取組の紹介</p> <p>④減量した事業所に対するインセンティブが働く仕組みづくり</p> <p>⑤資源化事業者の紹介窓口の充実</p>	<p>57.3%</p> <p>37.4%</p> <p>23.2%</p> <p>16.6%</p> <p>15.2%</p>	<p>+15.2</p> <p>+3.9</p> <p>+7.3</p> <p>+6.8</p> <p>▲0.7</p>	/		